

第67回日本体力医学会大会のご案内（第1報）

第67回日本体力医学会大会を下記の通り岐阜県岐阜市において開催いたします。

全国から多くの会員のご参加を心からお待ちしております。

なお、学会の最新情報は第67回大会ホームページ

(<http://www2.convention.co.jp/tairyoku2012/>) をご覧ください。

記

1. 会 期：平成24年9月14日(金)，15日(土)，16日(日)
2. 会 場：長良川国際会議場・岐阜都ホテル（岐阜市）
3. 大会長：古田 善伯（放送大学岐阜学習センター所長，岐阜大学名誉教授）
4. 大会事務局：岐阜大学大学院医学系研究科スポーツ医科学分野
第67回日本体力医学会大会事務局
事務局長：松岡 敏男（岐阜大学）
E-mail：matsuoka@gifu-u.ac.jp
TEL：058-230-6421
FAX：058-230-6422
運営事務局：日本コンベンションサービス株式会社 中部支社内担当：安治，山崎
〒460-0003 名古屋市中区錦3-6-35 名古屋郵船ビル4階
TEL：052-957-2131 FAX：052-954-2355
E-mail：67tairyoku@convention.co.jp
5. 大会プログラム（予定）
 - (1) 大会長講演
 - (2) 特別講演
 - (3) 教育講演
 - (4) シンポジウム
 - (5) 国際セッション
 - (6) ワークショップ
 - (7) 一般研究発表
 - (8) 学会賞受賞講演
 - (9) ランチョンセミナー
 - (10) 県民・市民公開講座
 - (11) 持久走大会

注1) 一般研究発表，公募制プログラムの申し込み等については，第2報でお知らせします。

注2) 学会大会の一般研究発表への応募は学会員に限ります。共同研究者は学会員でなくても構いません。会員および非会員の共同研究者が本大会に参加する場合は大会参加費が必要となります。

国際セッションのご案内

日本体力医学会では ECSS (European College of Sports Science, ヨーロッパスポーツ科学学会) との間で、国際交流の促進と学会員の学術レベル向上を目的として、平成11年度より若手研究者の交流事業を実施しています。平成24年岐阜県で開催される第67回日本体力医学会大会では、日本、ヨーロッパその他の海外の若手研究者の参加による「国際セッション」を開催する予定です。

奮ってご応募くださるようお願い申し上げます。詳細に関しては第2報でお知らせいたします。

第66回日本体力医学会大会(山口)を終えて



第66回日本体力医学会大会 大会長

東亜大学教授 江橋 博

第66回日本体力医学会山口大会は平成23年9月16日から18日までの3日間、山口県下関市の海峡メッセ下関と下関市生涯学習プラザを会場に開催され、1650名の参加者と743題の発表が行われました。遠路ご参加下さいました皆様方に厚く御礼申し上げます。

大会を開催するに当たり、下関市長をはじめ下関観光コンベンション協会など多くの関係者に多大なご協力をいただきましたことに対し、こころから御礼を申し上げますとともに、口頭発表の座長をお引き受け下さいました先生方にもお礼申し上げます。(座長のお礼の品が航空機の機内に持ち込めませんでしたこととお詫びいたします)

今年は3月に東北大震災が発生したため大会の開催が危ぶまれましたが、吉岡理事長はじめ理事の先生方から多くの激励を受けて開催することができましたことを厚く御礼申し上げます。そのため、今大会は東北地方、特に被害の多かった福島県、岩手県、宮城県に勤務、在住している会員24名につきましては大会参加費を免除させていただきました。

大会のプログラム構成は従来とあまり変わりませんが、今大会ではプログラム開始に先立ち下関市長を来賓に迎えて開会式を行いました。プログラムの内容は大会長講演、県民公開講座(1)、学会賞受賞論文表彰と講演(2)、教育講演(4)、シンポジウム(6)、ワークショップ(7)、ランチョンセミナー(7)、国際セッション(1)、一般研究発表(口頭：273、ポスター：470)、そして関門海峡沿いをコースとした持久走大会などで構成されました。また、33社の機器展示、4社の書籍等の展示、そして大塚製薬株式会社からの飲料提供などがありました。

さて、今大会はこれまでの大会には見られなかったいくつかの新しい試みを実践してみました。まず第1に従来からある大会予稿集に加え、大会日程などを縮小したポケットプログラムを作成して配布いたしました。軽くて便利にご利用いただけたものと思っています。第2には若手研究者の求職活動と大学・研究機関・企業

などの求人活動をサポートすることを目的として、本大会でのキャリアエクスペローラー（CE）マークの運用を始めました。若い研究者の就職支援に役立てばと思いました。第3には学生・ポスドクの若手研究者はすべて口頭発表を優先しました。その結果、口頭発表数は従来の大会より多い273題に達し、若い研究者の先生方は適度な緊張感をもって発表されたことと思います。

今大会のシンポジウム、教育講演などは一般会員からの公募は中止し、すべて実行委員会及び体力医学会理事会企画のものに限定しました。その結果、従来の大会よりシンポジウムや教育講演数は少なくなっています。シンポジウム1では東北大震災に関連した緊急特別企画として、「災害時における運動（身体活動）に関する支援活動」が行われ、注目されました。シンポジウム3では健康づくりの現場において各種の指導者資格をどのように活用するか、また指導現場からの体力科学への提言をテーマに論議がなされました。本学会には指導者養成に携わる会員も多く、そして体力医学会大会は資格継続研修の場としても位置づけられているため、大いに役立ったものと思われます。

教育講演4ではジョージア工科大学の篠原稔先生を招待して「国際誌エディターから見た論文審査の実態とアドバイス」と題して講演をお願いしました。篠原先生はアメリカでの生活が12年になり、その間精力的に研究活動をする傍ら、最近論文の質の高さが飛躍的に上昇しているACSMの機関誌であるMedicine and Science in Sports and Exercise (MSSE)のAssociate Editorを務めています。また、先生はJournal of Applied Physiology および Journal of Electromyography and KinesiologyのEditorial Boardメンバーでもあり、幅広く論文審査や編集委員として活躍しています。その立場から、国際誌に掲載されるためには何が重要であるかなどについて講演されました。若手の研究者には大いに役立ったのではないかと思います。

ランチョンセミナーには7つの団体が参加して下さいました。初日には1) 大塚製薬株式会社の「大塚スポーツ医・科学賞」を受賞した筑波大学の崔 英珠先生、相模女子大の坂手誠治先生の講演、2) 特定非営利法人 日本トレーニング指導者協会の「競技スポーツ・フィットネス分野におけるデータを活用したトレーニング指導」、3) アルケア株式会社の「CG（段階的圧迫）が生体に与える影響」が行われました。

二日目は1) 財団法人 明治安田厚生事業団が健康増進を目的とした公益活動として、研究助成優秀賞の研究報告ならびに運動による心のケアを取り入れた被災者支援について報告されました。2) 独立行政法人 国立健康・栄養研究所と財団法人 健康・体力づくり事業財団が共催で「健康づくり施策の普及・啓発活動」について講演され、3) 花王株式会社は「高齢者の体力づくりと栄養摂取」についての

講演、4) 社団法人 全日本コーヒー協会は「内臓脂肪、レプチン、およびインスリン抵抗性に及ぼすコーヒー飲用の効果」について報告がありました。

田中宏暁先生（福岡大学）が会長の体力医学会持久走大会は今年も最終日の9月18日午前6時45分スタートで行われました。この大会は5kmの自由走と時間予告走で構成され約50名の先生方が参加されました。コースの設定に際しましては、下関らしさを強調できるように工夫し、その結果観光の中心である唐戸市場をスタート・ゴールとするコースが決まりました。このコースは関門海峡沿いを走るルートで、目前に関門大橋、右手には関門海峡を行き来する大型船を眺めながら走ることができますので、選手には最高のロケーションであったかと思います。しかし、今大会ではこれまでにない建物の階段や、スロープを走るといった走路もあり、田中会長は終了後「記憶に残るコース」と絶賛(?)して下さいました。

最後に、本大会の開催にあたり多くの助言やご示唆を下さいました千葉大会の成澤大会長はじめ小林事務局長、事務局のみなさんに厚く御礼申し上げます。

また、大会の準備や大会期間中に重要な役目を担って下さいました奥本正事務局長はじめ実行委員や運営スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。さらに予稿集やポケットプログラム作成に当たりご尽力下さいました鶴岡印刷株式会社の白幡裕子さんおよび大会長講演の準備に際し多大な協力をいただいた明治安田厚生事業団の朽木勤博士に厚く御礼申し上げます。

次回の大会は古田善伯先生を大会長に岐阜市で開催されますが、ご盛会をお祈りし、第66回山口大会の報告とさせていただきます。

日本体力医学会定款

一 総 則

第1条 本会は、日本体力医学会（The Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine）と称する。

第2条 本会は、事務局を東京都（一般社団法人 学会支援機構内）に置く。

第3条 本会は、評議員会の議決を経て、地方会、支部を置くことができる。

二 目的及び事業

第4条 本会は、体力ならびにスポーツ医科学に関する研究の進歩、発展を促進し、研究の連絡協力を図るとともに、その成果の活用をはかることを目的とする。

第5条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学術講演会などの開催
- (2) 機関誌（体力科学）、名簿の刊行
- (3) FIMS（Federation Internationale de Medicine Sportive）など、本学会が関係する国際学会の行う事業への参加、協力
- (4) 体力医学の振興ならびに、普及、啓蒙
- (5) その他、前条の目的を達成するために必要な事業

第6条 学術講演会は、毎年1回以上開いて会員の業績を発表する。

国民体育大会行事の一環として行われる学術講演会（以下、学会大会と称する）は、国民体育大会の開催地で行われる。

三 会 員

第7条 本会の会員は、本会の趣旨に賛同する研究者、または団体で、評議員の推薦を必要とする。

第8条 本会の会員を次の5種とする。

- (1) 正会員
- (2) 名誉会員
- (3) 臨時会員
- (4) 賛助会員
- (5) 購読会員

第9条 正会員は、会費年額10,000円を納めるものとする。

正会員ならびに名誉会員は、学会および機関誌に業績を発表することができ、また、機関誌・名簿の頒布を受けるものとする。

2. 名誉会員は、本会に功労ある会員で評議員会により推挙されたものとする。
3. 臨時会員は、参加費を納入し、学会大会に出席できる。ただし、業績の発表および討論への参加はできない。
4. 賛助会員は、会費年額一口（50,000円）以上を納入し、これを機関誌に公表する。
5. 購読会員は、会費年額12,000円を納入し、機関誌の頒布を受けるものとする。

第10条 会員の入退会、除名は次の各号による。

- (1) 入会しようとするものは、所定の入会届を提出しなければならない。
- (2) 退会しようとするものは、当年度までの会費を完納し、所定の退会届を提出する。
- (3) 会員が、会員としてふさわしくない行為があった場合は、総会の議決を経て除名される。
- (4) 3ヶ年間会費を滞納した会員は退会とする。
- (5) 死亡、失踪宣言のあった場合は退会とする。

第11条 会費は会計年度内に納入し、既納の会費は返納しない。

四 役 員

第12条 本会には次の役員を置く。

理 事 20名以上25名以内（内、理事長1名、理事長推薦理事5名以内）

監 事 2名

評議員 若干名（内、評議員会長1名）

学会大会長 1名

第13条 役員を選任については次の各号による。

- (1) 理事長は、理事会において理事のうちから選任する。
- (2) 理事20名および監事は、評議員会において評議員のうちから選任する。ただし、理事長は、理事会の議決を経て5名を限度に総務、財務、編集等の業務を担当する理事を任免することができる。
- (3) 評議員会長は、評議員会において評議員から選任する。ただし、理事長が兼務することはできない。
- (4) 新評議員は、評議員の推薦により選考委員会の議を経て、評議員会で決定される。
- (5) 学会大会長は、開催地の評議員、またはこれに準ずる学識経験者のうちから理事会が推薦し、評議員会の議決を経て総会の承認を受け決定される。
- (6) 役員を選出についての細則は別に定める。

第14条 役員に欠員が生じたときは、2ヶ月以内に補欠選挙を行う。ただし、会務に支障を生じない場合には、補欠選挙を行わない。

第15条 理事長は、本会の会務を総理し、本会を代表する。

第16条 理事は、理事会を組織し、この定款に定めるもののほか、本会の総会および評議員会の権限に属した事項以外の全ての事務、およびその他の規則に定める事項を決議し、執行する。

第17条 監事は、本会の財産、業務などの状況を監査する。

第18条 評議員会長は、評議員会を代表する。

第19条 評議員は、評議員会を組織し、この定款およびその他の規則に定める事項について議決するほか、理事会の諮問に応じ、理事長に対し必要と認める事項について助言、または要求をすることができる。

第20条 学会大会長は、学会大会の開催に必要な一切の業務を行い、任期中必要に応じて理事会に出席する。

第21条 役員は、本会の役員としてふさわしくない行為があった場合、または本会の名誉を傷つけ、あるいは本会の目的・趣旨に反する行動があったとき、総会の議決によってこれを解任することができる。

第22条 学会大会長を除く役員の任期は3年とし、再任を妨げない。ただし、理事長については、連続3期までとする。

2. 学会大会長の任期は、前回学会大会終了後、前学会大会長より事務引継を受けた時に始まり、学会大会終了後、次回学会大会長に事務引継を行って終了とする。
3. 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。
4. 役員は、任期が満了しても、後任者が就任するまでは、なおその職務を行なう。
5. 役員は無給とする。

第23条 理事会または評議員会は、必要に応じて専門委員会を設け、委員を委嘱することができる。その委員会の代表は、必要に応じ理事会および評議員会に出席し専門事項の審議に参加する。

第24条 本会の事務を処理するため、職員を置くことができる。

2. 職員については、理事会の議決を経て理事長が任免する。
3. 職員は有給とする。

五 会 議

第25条 会議は、総会、評議員会および理事会とする。

第26条 総会は、毎年一回、学会大会開催中に理事長が招集する。

2. 臨時総会は、理事長または監事が必要と認めるとき、招集することができる。

第27条 理事長は、正会員現在数の5分の1以上または評議員会の決議により総会の招集を請求された場合、その請求があった日から1ヶ月以内に臨時総会を招集しなければならない。

第28条 総会の議長は理事長とする。

第29条 総会の招集は少なくとも10日前までに、その日時、場所を会員に通知しなければならない。

第30条 次の事項は総会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業計画および収支予算
 - (2) 事業報告および収支決算
 - (3) 財産目録
 - (4) その他、評議員会において必要と認めた事項
2. (1)の事項について、総会の招集が困難であるときは、理事会において決議することができる。この場合は、次の総会においてその承認を受けなければならない。

第31条 総会の議事は、別に定めがある場合を除き、出席者の過半数で決定し、可否同数のときは、議長が決定する。

第32条 評議員会は、毎年1回学会大会開催中に評議員会長が招集する。ただし、評議員会長が必要と認めたときは、これを招集することができる。

2. 評議員会長は、評議員現在数の2分の1以上から会議に附議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に招集しなければならない。

3. 評議員会の招集については、第29条を準用する。

第33条 評議員会の議長は、評議員会長とする。

第34条 評議員会は、評議員の過半数以上をもって成立する。ただし、出席できない評議員はあらかじめ書面をもって意志を表示し、または書面をもって委任することができる。この場合、これを出席と見なす。

2. 評議員会の議事は、出席評議員の3分の2以上で決定する。

第35条 理事会は、理事長が招集する。

2. 理事長は、理事現在数の2分の1以上から会議に附議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内に理事会を招集しなければならない。

3. 理事会の議長は、理事長とする。

4. 理事会の運用については、第34条を準用する。

第36条 会議においては議事録を作成し、議長および指名された出席者2名以上が署名の上、これを保存する。

2. 会議において議決した事項は、会員に通知する。

六 資産および会計

第37条 本会の資産は次の通りとする。

- (1) 財産目録に記載された財産
- (2) 会費
- (3) 事業に伴う収入
- (4) 寄付金品
- (5) その他の収入

第38条 本会の事業計画およびこれに伴う収支予算は、毎会計年度開始前に理事長が編成し、理事会及び評議員会の議決ならびに総会の承認を受けなければならない。

2. 事業計画および収支予算を変更した場合、理事会の承認を受けなければならない。

第39条 本会の会計年度は毎年9月1日に始まり翌8月31日に終わる。

七 定款並びに細則の変更

第40条 この定款並びに別に定める施行細則の変更は、総会において出席者の3分の2以上の議決を経なければならない。

八 解 散

第41条 本会の解散は、理事会、評議員会および総会において、それぞれ出席者の4分の3以上の議決を経なければならない。

第42条 本会の解散に伴う残余財産は、理事会、評議員会、総会において、それぞれ出席者の4分の3以上の議決を経て本会の目的と類似した団体に寄付するものとする。

九 補 則

第43条 この定款の施行についての細則は、理事会、評議員会および総会の議決を経て別に定める。

附 則

1. この定款は、総会において議決された10日目から施行される。

2. 制定、改正年月日

(昭和24年7月2日制定) (昭和44年10月30日改正)

(昭和59年9月21日改正) (昭和62年10月7日改正)

(平成9年9月21日改正) (平成12年9月20日改正)

(平成14年9月28日改正) (平成17年9月23日改正)

(平成21年9月19日改正)

ご 案 内

〈各種手続方法〉

	連 絡 先	住 所	電 話 番 号	備 考
正会員の入退会 及び住所所属変更	一般社団法人 学会支援機構 日本体力医学事務局	〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階 E-mail: jspfsm@asas.or.jp	☎03(5981)6015 FAX 03(5981)6012	入会は評議員1名の推薦 が必要 入会はHPより登録
正会員の会費納入	〃	〃	〃	年会費 10,000円 (事務局より送付される 所定振込用紙を使用)
購読会員の入退会 及び購読料納入	〃	〃	〃	年間 12,600円
学会誌のバック ナンバーの販売	〃	〃	〃	
賛助会員に関する業務	〃	〃	〃	
和文誌の投稿は HPより http://www.jspfsm.umin.ne.jp/	「体力科学」編集事務局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp	0235(22)3120 電話, FAX 共通	体力科学投稿規定参照の こと (毎巻6号に掲載及びHP 参照)
英文誌の投稿は E-mailにて hj-tairyoku@turuin.co.jp	「JPFSM」編集事務局	〃	〃	英文誌投稿規定はHP参 照のこと

〈地方会事務局〉

- 北海道地方会 〒069-8511 北海道江別市文京台23番地
北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科
水野 眞佐夫・小田 史郎
TEL : 011(387)3688 (FAX共通)
E-mail : os@hokusho-u.ac.jp
- 東北地方会 〒960-1296 福島県福島市金谷川1
福島大学人間発達文化学類
安田 俊広 (事務局長)
TEL : 024(548)8209 (FAX共通)
E-mail : yasuda@educ.fukushima-u.ac.jp
- 関東地方会 〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1
聖マリアンナ医科大学生理学教室
吉岡 利忠・小林 康孝(帝京平成大学)
TEL : 044(977)3915 (FAX共通)
- 北陸地方会 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1
金沢医科大学生命科学・体育
田村 暢熙 (事務局長: 中川 明彦)
TEL : 076(286)2211 FAX : 076(218)8090
E-mail : tamura@kanazawa-med.ac.jp
- 東海地方会 〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12
愛知学院大学心身科学部健康科学科
佐藤 祐造・長崎 大
TEL : 0561(73)1111 FAX : 0561(73)1142
E-mail : satoy@dpc.agu.ac.jp
- 近畿地方会 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科運動生体医学分野
藤本 繁夫
TEL : 06(6645)3790 FAX : 06(6646)6067
E-mail : sfujimoto@med.osaka-cu.ac.jp
- 中国・四国
地 方 会 〒701-0193 岡山県倉敷市松島288
川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科
小野寺 昇 (事務局長: 矢野 博己)
TEL : 086(462)1111(内線 54041, 54835)
FAX : 086(464)1109
E-mail : jspfsm@mw.kawasaki-m.ac.jp
URL: <http://www.kawasaki-m.ac.jp/mw/sports/jspfsm-chushi/>

〈FIMS(国際スポーツ医学会)事務局〉

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE MÉDECINE
SPORTIVE(F.I.M.S.)

Secretary General of FIMS:
Prof. Lyle J Micheli, MD, USA
Office: Children's Hospital- 2nd floor, Division of Sports
Medicine, 319 Longwood Avenue,
Boston, MA 02115, UNITED STATES OF AMERICA
Tel : +617 355 6970
Fax: +617 730 0694
Email: michelilyle@aol.com
Alternate Email: stacey.cobban@childrens.harvard.edu

第23回日本体力医学会スポーツ医学研修会のご案内

本研修会は、基礎コースと応用コースに分かれ、それぞれ2日間、講義と実習を行います。救急救命法、健常者や生活習慣病罹患者に対する運動処方、筋力トレーニングおよびテーピングなど実習を主体とした研修会です。メタボリックシンドローム危険因子保持者などを対象とした運動指導等であり、アスリート対象ではありませんのでご注意ください。

尚、平成23年度より新たな講師陣を加え、1) 喫煙や環境汚染および加齢による慢性閉塞性呼吸器疾患(COPD)の運動による改善効果の機序や運動処方、2) 降圧剤など薬物治療受診者の運動指導の適否、配慮すべき事項など、3) 機能的食品と運動療法併用によるメタボリックシンドローム危険因子改善効果など、4) 体組成とくに内臓脂肪の意義およびその測定実習、などの内容を加えました。

全てのコースを受講して修了試験に合格し、所定の手続きをとると日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号を受けることができます。称号取得を希望される方は、日本体力医学会に入会し、会員になっていただく必要があります。

この研修会には日本体力医学会の会員でない方も参加できます。また、他の研修会を受講し資格や称号を取得された方で、それらの更新に必要な認定単位取得のために本研修会を受講されても結構です。受講証明書を発行いたします。

多数の方のご参加をお待ちしております。尚、実習を行う関係上、各年度の募集人数に制限がありますことをご確認ください。

平成23年12月1日

日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会

鈴木政登 碓井外幸 太田 真 中島幸則

1. 会場

会場は東京慈恵会医科大学西新橋校各会議室・大学1号館6F機能系実習室などです。

2. 日時および研修カリキュラム

(I) 基礎コース

運動生理学やスポーツ医学等の基礎的事項については既に習得されていることを前程にさらに進んだ生理学（神経・筋、呼吸、循環、代謝など）や生化学、栄養学および運動処方の基礎などを中心に学びます。ここで学んだことを基盤として、(II) 応用コースへと進みます。

平成24年

7月6日(金)

9:00~10:30	運動と神経・筋
10:40~12:10	運動と呼吸
12:10~13:10	昼休み
13:10~14:40	運動と代謝（水・電解質およびエネルギー代謝）
14:50~16:20	運動と栄養
16:30~18:00	運動と循環
18:00~	懇親会（会費3000円、参加自由）

7月7日(土)

9:00~10:30	運動処方の基礎
10:40~12:10	生活習慣病の運動処方（肥満・糖尿病・高脂血症）
12:10~13:10	昼休み
13:10~17:00	救急救命実習（人体模型を用いた実習）

(II) 応用コース

このコースの講義では、有疾患者または薬物治療中の場合の運動適用の可否や運動指導の実際について学びます。実習では、自転車エルゴメータによる運動負荷試験を行い、それと関連した血液・尿検査結果データを参考に運動処方を作成する。さらに、高齢者や喫煙習慣保持者の健康を脅かす慢性閉塞性呼吸器疾患を反映する呼吸機能検査、糖尿病性腎症等の腎機能異常の有無を知る尿検査、およびメタボリックシンドローム罹患の上流因子として重要な内臓脂肪蓄積状態を知る体脂肪測定法などを実習します。その他に、テーピングや筋力トレーニング実習なども行われます。

8月3日(金)

- 9:00~10:30 高血圧症およびその他の循環器疾患の運動処方
- 10:40~12:10 運動器疾患の運動処方
- 12:10~13:10 昼休み
- 13:10~17:00 運動処方実習（自転車エルゴメータを用いた運動負荷試験、心電図記録、呼吸機能検査、尿検査、体組成測定実習）

8月4日(土)

- 9:00~12:00 運動処方の作成（前日の運動負荷試験で得られたデータを基に各被検者の運動処方を作成し、実施させる）
- 12:00~13:00 昼休み
- 13:00~17:00 テーピングおよび筋力トレーニング実習

8月5日(日)

- 10:00~12:00 修了試験

注意：講師の都合で講義時間割りが前後することがありますので、ご了承下さい。

3. 修了試験と称号について

基礎コースおよび応用コースの両コースを受講した方は、所定の修了試験を受験することができます。修了試験の合格者には合格証を発行いたします。また、修了試験合格後、所定の手続きを経て、日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号を取得することができます。

修了試験は平成24年8月5日(日)10:00~12:00に東京慈恵会医科大学で行います。

4. テキスト

担当講師が用意した講義資料を簡略なテキスト化し、それに準じて講義が行われます。

5. 受講料

受講料は（I）基礎コース、（II）応用コースおよび修了試験の全てを受講する場合は50,000円、単科コース（基礎コース、応用コースの各コースを単独受講）を受講する場合はそれぞれ25,000円（2日間コース）です。2コースの受講を原則としますが、定員に余裕があれば単科コースの受講も可能です。その年度に受講しなかったコースを次年度以降に受講すれば、全コース受講後修了試験を受験することができます。尚、学生受講者は30,000円（基礎・応用コース）と致します。ただし、学生証の呈示が必要です。

6. 受講資格と定員

スポーツ医学研修会受講資格は特に定めませんが、2コース受講後に行われる修了試験に合格し、日本体力医学会“健康科学アドバイザー”の称号取得申請を希望する方は日本体力医学会会員でなければなりません。但し、自己研鑽のために本研修会を受講される方や他団体の資格や称号の登録更新のための認定単位取得が目的の場合は日本体力医学会会員になる必要はありません。定員は各コース40名です。

7. その他

健康運動指導士、実践指導者の登録更新に必要な履修単位90分1単位（講義題目8科目認定）およびTHPではそれぞれ基礎コース5単位、応用コース5単位が認定されます。

8. 申し込み方法

本研修会受講希望者は、葉書またはFAXで、日本体力医学会スポーツ医学研修会を受講したい旨を下記までご連絡下さい。仮申込受付後、申込書類をお送りいたしますので要領に従いお申込下さい。なお、申込に際し、受講料をご案内の口座に2週間以内にお振込みください。お振込みをもって正式な申し込みとさせていただきます。定員に達し次第、締め切らせていただきますのでご了承下さい。受講票、受講料などの連絡は、受講通知とともに後日ご案内させていただきます。

なお、申し込みが20名に満たない場合には中止させていただきますのでご了承ください。その時には受講料を払い戻しますが、本人都合による返金には応じられませんのであらかじめご了承下さい。

9. 申込書送付先および問い合わせ先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-18 小石川アーバン4F
 一般社団法人 学会支援機構内
 日本体力医学会スポーツ医学研修会 係
 電話：03-5981-6011 FAX：03-5981-6012
 E-mail：jspfsm@asas.or.jp

第23回 日本体力医学会スポーツ医学研修会 仮申込書

下記の通り、研修会の受講を申します。（該当する□にレ印をつけてください。）

- 第23回基礎コース
- 第23回応用コース
- 試 験

氏 名

連絡先 〒 -

TEL：

FAX：

平成24年度日本体力医学会プロジェクト研究公募について

日本体力医学会プロジェクト研究（以下、プロジェクト研究）は、平成9（1997）年度に発足しました。日本学術会議体力科学研究連絡委員会から「日本人のための健康体力指標の標準化、及び健康増進・疾病予防のための身体活動に関する推奨・指針作成への提言」が出されたことを受けて、平成16年度からこの提言に関わるプロジェクト研究を公募して参りましたが、平成24年度の公募研究テーマが下記のごとくに決定しましたので、奮って応募いただくようご案内致します。

プロジェクト研究の全体像

- プロジェクト研究は、日本人の健康維持・増進に関連した体力及び身体活動・運動を主題とした研究であり、その成果として、社会に対して、勧告、指針などの提言がまとめられるものでなければならない。
- 平成24年度は下記のいずれかの研究テーマに関する研究課題に限定する。
 - 1) 特定保健指導(メタボ対策)に関する基礎的研究
 - 2) こどもの生活習慣と健康づくりに関する研究
 - 3) スポーツ科学(体力科学・体力医学)に関する研究
- 多施設が共同研究を行うことにより初めて成果が出るような研究プロジェクトであること。その際に各研究者の役割を明確にすることが必要である。
- プロジェクト研究の選考は学術委員会の下部組織であるプロジェクト研究委員会が行う。
- プロジェクト研究の申請は、研究代表者（評議員）と数名の発起人が、研究計画書を作成してプロジェクト研究委員会に提出する。
- プロジェクト研究委員会では提出された研究計画書を審査して、採択する研究を決定する。なお、本年度の新規採用可能件数は1～2件である。
- 採択された研究の代表者は研究計画を体力科学に掲載して、研究協力者を募集することも可能である。その場合には、研究協力者の採択は研究者と発起人に一任する。また、プロジェクト研究委員会が必要と認める場合には、他の研究者を指名して加えることもできる。
- プロジェクト研究委員会は研究計画に基づき研究費

を配分する。研究費は主に調査や資料の収集などに当てるものとする。年間およそ100万円程度を限度として配分する。プロジェクト研究の研究成果は3年以内でまとめ、(1)プロジェクト研究委員会の審査を経て、理事会の承認を得て、(2)「体力科学」および日本体力医学会大会において公表する。（注：学会の公式見解とするかどうかは、理事会で審議する）

プロジェクト研究に応募される方は、研究代表者（評議員に限る）と数名の発起人が、以下の項目に沿って研究計画書をA4版にワードプロセッサで書き、平成24年4月30日までに下記の提出先にお送りください（電子メールによる提出も可）。研究計画の採否は追って、研究代表者に通知します。

研究計画書

- 研究代表者名（署名捺印してください）、所属部署・所属大学など、住所、最終学歴（卒業大学または修了大学）と年月日、学位の有無、連絡先の住所、電話、ファックス、電子メールアドレス
- 研究発起人名、所属部署・大学、最終学歴（卒業大学または修了大学）と年月日
- 研究課題
- 研究目的（200字以内）
- 研究期間（3年以内）
- 研究計画（200字以内）
- 研究方法（400字以内）
- 期待される研究成果（200字以内で具体的に、例、ガイドライン）
- 研究費の使途（会合費、通信費、印刷代などの費目）に分けて概算を出してください
- この研究に関するこれまでの成果（原著、著書などの研究業績）を番号をふって書いてください

提出先 大野 誠

日本体力医学会プロジェクト研究委員会委員長
〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1
日本体育大学大学院 健康科学・スポーツ医科学系
TEL：03-5706-0814 FAX：03-5706-0814
E-mail：m_ohno@nittai.ac.jp

日本体力医学会 国際交流事業
2012年ヨーロッパスポーツ科学会議 (ECSS) / 日本体力医学会 (JSPFSM)
合同シンポジウム参加シンポジスト募集要項

日本体力医学会会員各位

1. 2012年7月4日～7日にベルギー・ブルージュにおいて開催される第17回ECSSの表記シンポジウムのシンポジスト3名を募集いたします。本シンポジウムは、ECSSとJSPFSMの学術交流をはかる重要なシンポジウムです。本会会員若手研究者の積極的な参加を期待します。
2. シンポジストとして参加を希望する会員は、発表者氏名、希望発表演題のタイトル・共同演者名・所属（いずれも英文）、抄録（英文でスペースを含めて本文3000字以内）、過去3年間の業績リスト（Peer Review誌に発表された原著論文3件以内；和文も可）をMS-Wordで作成し、2011年12月16日（金）午後5時までに電子メールで渉外委員会委員永富良一（nagatomi@med.tohoku.ac.jp）までお送りください。なお採択された抄録原稿はそのままECSSのAbstractとして掲載されますので、英文の校正を行ったのちに提出してください。Abstract書式についてはECSS-Brugesのabstract submission guidelines に従ってください。なおECSSの一般演

題受付は2011年12月15日（木）から開始され、締め切りは2012年2月15日になります。

<http://www.ecss-congress.eu/2012/>

3. 採択の可否は、渉外委員会が組織する推薦委員会で審議を行い決定し、2012年1月末日までに本人に通知し、本ホームページ上で公開します。
4. なお応募者が定員を満たさない場合でも、発表内容が学術的に不十分と判断された場合には、不採択になることがあります。この場合は、推薦委員会より参加シンポジストの指名推薦を行うこととします。
5. シンポジストとして採択された会員はECSSからの招待の条件として学会登録費と宿泊費が免除されます。また日本体力医学会より学術奨励賞として150,000円が支給されます。なお採択者には2012年7月中に報告書を提出していただきます。報告書は体力科学に掲載されることとなります。
6. 不明な点、質問は渉外委員永富までメールでお知らせください。

平成23年11月19日

日本体力医学会渉外委員会

第16回日本体力医学会東海地方会のご案内

会 期：2012年3月17日（土）

会 場：ホテルグリーンパーク津

〒514-0009 三重県津市羽所町700（アスト津内）

会 長：加藤 公（三重大学大学院医学系研究科スポーツ整形外科 教授）

テーマ：『科学的トレーニング』

プログラム概要

- ・特別講演「高地トレーニングとコンディショニング～2010ワールドカップ南アフリカ大会・日本代表チームに帯同して～」

杉田 正明 先生（三重大学教育学部保健体育科 教授）

- ・シンポジウム テーマ：低酸素環境と運動器

西村 明展先生（三重大学大学院医学系研究科スポーツ整形外科 助教）

堀 和一郎先生（医療法人永井病院整形外科 医師）

片山 敬章先生（名古屋大学総合保健体育科学センター体育科学部 准教授）

募集要項：一般演題はe-mailでのみ受け付けます。

演題、演者と共同研究者の氏名、所属、抄録（600字以内）をwordファイルで作成し、下記のメールアドレス宛に添付し送信して下さい。

メール本文にお名前、連絡先住所と電話番号をご記入下さい。受付確認メールが返信されない場合は事務局までご連絡ください。

申し込み締め切り日：2012年1月27日（金）

送付先：tairyokutokai@yahoo.co.jp（担当 白井千恵）

一般演題から2題を選出し、「奨励賞」（副賞付）を授与します。

学会HP：<http://www.medic.mie-u.ac.jp/tairyoku-tokai/>

事務局：第16回日本体力医学会東海地方会学術集会事務局
 三重大学大学院医学系研究科スポーツ整形外科内

TEL：059-231-5022 FAX：059-231-5211

E-mail tairyokutokai@yahoo.co.jp

平成24年日本体力医学会関東地方会の開催予定

平成24年に開催される関東地方会は、次の通りです。地方会のご案内および演題募集は、逐一「体力科学」および「日本体力医学会ホームページ」にてご連絡を申し上げます。また、プログラム案内もでき得る限り「体力科学」の紙面および「日本体力医学会ホームページ」活用を考えております。皆様の演題応募ならびに積極的なご参加をお待ち申し上げます。

第154回日本体力医学会関東地方会

開催日：平成24年3月17日(土) 予定
 会場：東海大学 湘南キャンパス17号館2階ネクサスホール（平塚市北金目4-1-1）
 小田急線 東海大学前駅より徒歩20分
 [一般演題の締め切り予定：平成24年2月10日]
 当番幹事：町田修一（東海大・体育・生涯スポーツ）
 TEL 0463-58-1211(内線3590) FAX 0463-50-2056
 machidas@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp

第155回日本体力医学会関東地方会

開催日：平成24年7月7日(土) 予定
 会場：横浜薬科大学（横浜市戸塚区俣野町601）
 [一般演題の締め切り予定：平成24年6月1日]
 当番幹事：八田有洋（横浜薬科大・健康薬学）
 TEL 045-859-1300(内線7007) FAX 045-859-1301
 a.hatta@hamayaku.ac.jp

第156回日本体力医学会関東地方会

開催日：平成24年12月8日(土) 予定
 会場：東京農工大学 府中キャンパス（府中市幸町3-5-8）
 [一般演題の締め切り予定：平成24年11月3日]
 当番幹事：下田政博（東京農工大・農・地域生態システム）
 TEL 042-367-5642 FAX 042-367-5648
 shimoda@cc.tuat.ac.jp

関東地方会事務局

聖マリアンナ医科大学 生理学

吉岡 利忠

TEL & FAX 044-977-3915

第154回日本体力医学会関東地方会のご案内

開催日：平成24年3月17日(土) 予定
 会場：東海大学湘南キャンパス17号館2階ネクサスホール
 〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1
 （最寄駅：小田急線 東海大学前駅より徒歩20分）
 当番幹事：町田修一（東海大学・体育学部・生涯スポーツ学科）
 TEL 0463-58-1211(内線3590) FAX 0463-50-2056
 E-mail：machidas@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp

【予定プログラム】

- 1) 特別講演
- 2) シンポジウム
- 3) 一般演題

備考：当該プログラムを、健康運動指導士及び健康運動実践指導者の登録更新講習会として（財）健康・体力づくり事業財団へ申請する予定

【一般演題の申し込み要領】

演題名、発表者及び共同研究者とその所属、口演要旨(400字程度)、連絡先（氏名、郵便番号、住所、電話およびFAX番号、E-mailアドレス）を下記のいずれかの方法でお送りください。

1. E-mailで送信する。
2. A4用紙に印刷した原稿を郵送

一般演題の締め切り予定：平成24年2月10日

送り先：

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1
 東海大学体育学部生涯スポーツ学科 町田修一 宛
 E-mail：machidas@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp

日本医学会だより

JAMS News

2011年10月 No. 46
日本医学会

◆第28回日本医学会総会特別企画

第28回日本医学会総会は本年3月の東日本大震災の影響により開催形態の変更を余儀なくされたが、9月17日～18日、特別企画として東京国際展示場にて学術講演会が開催された。

放射線医療、震災後の地域社会と医療、医療と情報、「医の現在」から「医の未来」への4課題についてのシンポジウム他、記念講演2題、セミナー1題、講演20題が行われた。

◆第141回日本医学会シンポジウム

「がん分子標的治療の進歩」をテーマに、12月8日(木)13:00～17:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、前原喜彦、野田哲生、田村和夫の各氏。郵便はがき、FAX、本会HP (<http://jams.med.or.jp/>)にて申込み受付中。参加費無料。プログラムは日本医学会HPをご参照いただきたい。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月7日に開催し、平成23年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞23、奨励賞38を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・マウスモデルを用いた大腸がんの研究/武藤誠(京大・遺伝薬理学)
- ・わが国から胃癌を撲滅するための具体的戦略/浅香正博(北大・がん予防内科学)
- ・超高齢社会における新しい運動器学の構築とその病態解明、および先端的評価法・治療法の開発/中村耕三(国立障害者リハビリテーションセンター)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・膵β細胞の分泌準備分子機構の可視化解析：神経終末との対比/高橋倫子(東大疾患生命工学センター・構造生理学)
- ・新規生体分子イメージングによる慢性炎症を基盤とする生活習慣病病態の解明/西村 智(東大・循環器内科学)
- ・ヒト体細胞から直接ヒト心筋細胞を作成するリプログラミング技術の開発/家田真樹(慶大・循環器内科学)
- ・肺がん原因遺伝子EML4-ALKの発見と臨床応用/曾田 学(自治医大・ゲノム機能研究部)
- ・自然免疫系におけるウイルス認識機構に着目した新たな感染防御へのアプローチ/高岡晃教(北大遺制研・分子生体防御分野)
- ・筋萎縮性側索硬化症の原因遺伝子Optineurinのモデルマウスの作製・評価/丸山博文(広大原爆放医研・分子疫学)
- ・消化器癌幹細胞におけるCD44を介したROS制御機構の解明と治療への応用/石本崇

胤（熊本大・消化器外科学）

- ・通信情報技術を活用し構築した緑内障診療支援システムの課題と有用性の証明/柏木賢治（山梨大・地域医療学）
- ・長寿・老化モデルマウスを用いた慢性炎症機構の解明/南野 徹（千葉大・循環病態医科学）
- ・脳梗塞に対する血管保護療法の確立に関する研究/下畑享良（新潟大脳研・神経内科学）
- ・消化器癌細胞全ゲノム解析による再発転移機構の解明/三森功士（九大別府病院・外科学）
- ・凍結免疫療法を併用した新しい脊椎転移がん手術の開発/村上英樹（金沢大・機能再建学）
- ・卵巣癌の分子生物学的特性を利用した新規治療法の開発/中山健太郎（島根大・産科婦人科学）
- ・尿路結石の形成機序における環境要因と遺伝要因からみた病態解明/安井孝周（名市大・腎・泌尿器科学）
- ・ヒトパピローウイルスを指標とした原発不明癌頸部リンパ節転移の個別化治療/猪原秀典（阪大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）

◆日本医学会法人化準備委員会

日本医学会の法人化準備に向けて、本年度新設された委員会で、委員は富野康日己（委員長）、里見 進（副委員長）、池田康夫、岡山博人、松木則夫、野田哲生、福永龍繁、小林廉毅、福永慶隆、堀内行雄、岩下光利、山田芳嗣の12名で構成されている。第1回委員会は9月13日（火）に開催された。

◆日本医学会分科会利益相反会議

「産学連携における医学研究とCOIマネジメントの在り方」をシンポジウムテーマとした第2回日本医学会分科会利益相反会議を曾根三郎日本医学会臨床部会利益相反委員会委員長の総合司会の下、11月16日（水）13:00～16:20、日本医師会館小講堂にて開催する。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ

（<http://jams.med.or.jp/>）にて、申し込まれたい。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「国際的なCOIマネジメントの現状と動向」(J. Patrick Barron 東京医科大学国際医学情報学主任教授)、「医科系大学におけるCOIマネジメントの現状と問題点」(玉木俊晃 国立大学医学部長会議研究倫理に関する小委員会委員長)、「学会におけるCOIマネジメントの現状と問題点」(高後 裕 旭川医科大学消化器・血液腫瘍制御内科学教授)、「製薬企業におけるCOIマネジメントへの取り組み」(花輪正明 日本製薬工業協会医薬品評価委員会副委員長)、「医学研究における産学連携と国民の理解」浅井文和（朝日新聞社編集委員）のそれぞれの講演が行われる予定。

◆移植関係学会合同委員会

第30回移植関係学会合同委員会が平成23年9月6日、厚生労働省で開催された。

小腸移植実施施設については、旭川医科大学病院、自治医科大学附属病院、国立成育医療研究センター、熊本大学医学部附属病院の4施設が追加認定された。

肝臓移植実施施設については、岩手医科大学附属病院が追加認定された。

心肺同時移植実施施設については、東北大学病院が追加認定された。

腎臓移植のレシピエント登録は、「透析導入後またはそれに準ずる者」とされてきたが、透析導入前の腎不全患者にも適応を拡大することとした。

肝臓移植レシピエント適応基準については、「劇症肝炎」「肝移植後肝不全」および「非代償性肝硬変」の重傷度の評価基準などを変更した。

心臓移植レシピエント適応基準では、「60歳未満が望ましい」となっていたが、「65歳未満が望ましい」へ変更することが発議され、臓器移植委員会における、心臓移植希望者選択基準に係る検討の結果を踏まえて、施行されることとなった。

編 集 後 記

体力科学 60巻6号をお届けします。本号には、第66回体力医学会の632編の抄録が掲載されております。学会を主催していただきました関係者の皆様、大変御苦労さまでした。さて、年末ということなので、少し本誌と直接関係のない話をします。

私の研究室のすぐ横にはちょっとした「森」になっていて、大きいクスノキを中心に、数本のメタセコイヤが植わっている。クスノキは樹齢100年を超えるかという立派な大木で、一時期、夏に、ムクドリが大挙押し寄せて、うるさくて大変だったことがある。メタセコイヤは背丈20mで、四季を通じてヒヨドリがやってきて、時々、じっと私の部屋をうかがっているが、かつて、冬にシクラメンの花を窓際に飾っていたら、一羽が餌と勘違いして突進し、窓ガラスにぶつかって驚かされたことがある。その他、名前を知らないが、芽吹きの季節には、ツガイでこれらの木々の枝で追いかけてこをする鳥たちがいるし、夏には木の根っこから頭を出す蝉の幼虫を集団でハンティングする鳥たちもいる。このように活発に動き回る彼らをみていると、どこかの映画で見た「鳥の先祖は恐竜」という考えも説得力を帯びてくる。

一方、その森の中には細い歩道が通っており、毎朝、通勤通学で通る人たち、医学部と大学本部の間を工事で行き来する教職員がいる。幸い、彼らは横の建物の2階から私に見られていることを知らない。その中には、親しい方もおられ、「おっ、今日は張り切っているな、何かいいことあったのかな、とか、おや、きょうは元気がないな、何か心配事でもあるのかな」など、バード

ウォッチングならぬマンウォッチングも楽しめるのだ。

さて、その森の中に「美人のみじの木」がある。背丈はちょうど5m程度と、少し小ぶりなのだが、生えているのがちょうどクスノキの大木の陰になる場所で、気温の影響を直接に受けないためだろうか、周辺の他の木々より少し遅れて紅葉が始まる。ちょうど木の上部の枝からゆっくりと色づき始め、徐々に下部の枝に降りてくる。その様は、正に精霊が天から舞い降りるようで、日ごとに進行するショーを見ている趣でもある。私は、毎朝、木に「お前は美人だねえ」と語りかける、そうすると、本当に日ごとに美人になっていくようで不思議だ。この時期になると、歩道を通る人たちが、そののみじの前で少し立ち止まり、木を見上げたり、中には写真を撮る人もいる。また、末枝の葉っぱを少し失敬して大事そうに手持ちの袋に入れる人もいる。さらに、近くの保育園の園児たちがやってきて、木の下で落ち葉拾いをするのだが、その時、カサカサと落ち葉がこすれ合う音とコロコロ転がるような子供たちの歓声が混じり合って私の部屋に聞こえてくる。つかの間の至福の時、でも、もう松本郊外の山々は真っ白で、もうすぐ下界にも本格的な雪の季節がやってくる。

地球温暖化、原発事故のニュースを見るにつけ、私の前で繰り広げられるこの小さい季節のうつろいが、いつまでも続けばいいと思う。そのために、科学者の端くれとして、今、自分に何ができるのか、と生意気に考えたりする。

能勢 博

Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol. 60, No. 6

体 力 科 学 第 60 巻 第 6 号

平成 23 年 11 月 25 日 印 刷

平成 23 年 12 月 1 日 発 行

編 集 兼 発 行 者

鈴 木 政 登

発 行 所

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階
一般社団法人 学会支援機構

日 本 体 力 医 学 会

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社内

「体力科学」編集事務局

TEL・FAX(共通) 0235-22-3120

E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社